

白旗山



ふれあいの森には、木工館・陶芸窯などの施設があり、木を使った工作や陶芸を体験できるほか、炭火焼きコーナーではバーベキューが楽しめます。自然観察の森では、季節によって、森林浴・山菜採り・キノコ狩りを楽しむことができ、冬季にはかんじき散策も体験できます。

あしりべつ川

清田区では昔から「あしりべつ川」と呼ばれている「厚別川（あつべつがわ）」。厚別（あしりべつ）橋付近には清田の発展に大きく寄与した吉田用水の記念碑が建てられています。河川敷に広がる厚別川緑地は多くの区民に親しまれ、ウォーキングコースやパークゴルフコースとして利用されています。夏にはあしりべつ川体験塾などのイベントが行われるほか、北野ふれあい橋周辺では北野ふれあい夏まつりが開催され、夜の花火大会には区内外から多くの人を訪れます。



あしりべつ郷土館

実際に使われていた農具や生活用具の展示をはじめ、いろいろたのある農家の様子などが復元展示されており、清田の開拓の歴史を知ることができます。拡大された航空写真を年代ごとに見比べると、開拓時代からの開発の歴史が実感できます。



(清田1条2丁目 区民センター2階)

厚別神社



(平岡2条1丁目)

明治18年に、豊作や村人の安全を願って厚別川東側（旧国道36号との交差付近）に建てられた神社。大正6年に現在地に移されました。境内には、清田地区の開拓100周年の記念碑があります。石段を登って振り返ると、大変眺めが良いと評判です。

平岡公園



梅林の名所として知られるほか、ゲートボール場、パークゴルフ場、テニスコート、野球場もあり、多くの市民に利用されています。また、梅林と厚別中央通側をつなぐ「梅の香橋」からは、湿地に生息するホタルをはじめ、さまざまな動植物を観察することができます。

平岡樹芸センター

平岡の故竹沢三三郎氏から、全道各地の樹木、石を集めた庭園の寄贈を受け、昭和59年に開園しました。園内には日本庭園や西洋庭園、ロックガーデンがあり、イチイ、マツ、ツツジ類などが植栽されています。特に春は桜のトンネル、秋はノムラモジのトンネルが見事です。庭木相談所が設置され、庭や自然に関する多くの相談を受けています。



(平岡4条3丁目)

清田

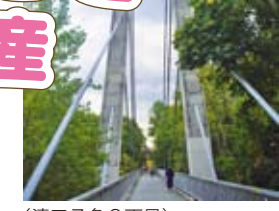
ふるさと遺産

有明の滝

ミズナラ、ホオ、イタヤカエデなどの広葉樹が茂り、緑のトンネルのような散策路を歩くと、落差13メートルの滝が現れます。1時間ほどの散策で、体いっぱい自然を感じることができます。秋は紅葉で人気があります。



清田南公園



(清田7条2丁目)

起伏に富んだ地形と清田川貯水池が美しい公園です。この公園でひととき目を引く清雲橋は、清田川で分断されていた清田団地の西地区と南地区を結ぶため、平成2年に開通しました。子どもを対象とした「清雲橋まつり」でも親しまれています。

北野たかくら緑地



大正13年に故高倉佐輔氏が牧場として開拓した区域の一部を緑地にしたものです。回転ゲートから入る木道は清浄な空気と静けさに満たされ、コナラの森には野鳥や昆虫が生息し、地域住民の絶好の自然観察ポイントとなっています。

(北野6条4丁目)

旧道沿いの原風景

緩やかに蛇行・起伏する旧国道36号は、古くから地域の人々の生活を支えてきました。道路沿いには、懐かしいレンガ倉庫、桜並木、樹齢約200年のヤチダモ（清田小学校前）などが点在するほか、宅地化が進むなかで、清田緑地が自然林のままで残っています。また、清田小学校のゆめたんぼ、区役所裏にあるホタル池などは、開拓当時の清田の田園風景を思い起こさせてくれます。



住宅街に残る原風景

開発が進む一方で、三里塚小学校の校庭にある樹齢約140年のイチイ、自然を生かしたレクリエーション施設、アオサギが飛来する姿など、住宅街にも清田の原風景を思い起こさせるものが残っています。



清田の水を生かした食品産業



清田の家庭では、かつて生活用水には井戸水（地下水）が使用されていました。現在ではほとんどが水道水に切り替わりましたが、良質で豊かな清田の地下水は、現在でも区内の飲料や食品の製造工場で使用されています。

ほかにもいろいろありました

ふるさと遺産候補

ふるさと遺産は、多くの皆さんからのご意見をもとに決定されました。ここで、皆さんからいただいた候補の一部を紹介します。

- ・ 清田音頭
- ・ 里塚小唄
- ・ YOSAKOI (ヨサコイ)
- ・ 清田区民まつり
- ・ 三里塚神社
- ・ 東部緑地
- ・ 清田中央公園
- ・ 北野緑地

シンボルとふるさと遺産の決定方法については、広報さっぽろ11月号区民のページ4ページをご覧ください。